

上山市振興計画推進会議の検証結果概要

1 会議概要

- (1) 開催日：令和8年7月16日（木）
- (2) 場所：401・402会議室、政策会議室、301会議室
- (3) 参集者：上山市振興計画推進会議委員9名、副市長・事業担当課長
- (4) 協議内容：第8次上山市振興計画前期基本計画（計画期間：令和6年度～令和9年度、61施策270事業）について検証を実施した。

また、第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（計画期間：令和7年度～令和10年度）に位置付けられている事業、新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用した事業、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業及び企業版ふるさと納税を活用した事業についても検証を実施した。

2 検証結果の主な内容

■ 全体検証

- ・ 「第4章 安心して暮らせる持続可能なまち」に「安心」とあるが、クマ被害に対する取組や対策が第4章にないのは不十分ではないか。住宅街にもクマが出没し、不安な状況であり、農業・産業の枠組みを越えてクマ対策に取り組むべき。

■ 第1章 笑顔「みんなが笑顔で輝けるまち」

1-1-1 保育・子育てサービスの充実

- ・ 中間アウトカム指標「総合子どもセンターの年間利用者数」の利用内訳は、市外が約7割、市民が約3割とのことで、今後は市民利用者数の検証を検討いただきたい。

1-3-1 英語を通じたコミュニケーション能力の育成

- ・ 現時点で小中学生が日常的に英語を使って海外の方と触れ合う機会は少ないかもしれないが、将来的により国際化が進む中で、小中学生のうちから英語に親しむ機会や受けやすい英検の受験環境があるのは重要なことである。

1-5-1 生涯学習環境の整備

- ・ 放課後子ども教室参加児童の満足度について、「参加者数も増えて満足度も上がった」のであれば望ましいが、「参加者数は減ったが満足度は上がった」のであれば、性質が異なり分析の視点も異なってくるのではないか。

1-5-2 図書館機能の充実と読書活動の推進

- ・ 利用基準が本来の図書館利用者にとって不便になっている一面があるかもしれない。

1-6-1 文化財愛護による地域づくり

- ・ 市民史跡保全活動に保護者と子どもと一緒に参加できるような機会があれば、文化財や保全活動について広く市民に知ってもらいきっかけになると思うので検討いただきたい。

1-8-1 生活困窮者等の自立に向けた支援の推進

- ・ 中間アウトカム指標の稼働収入増による自立世帯数の割合に加え、世帯数実数での分析も必要なのではないか。

■ 第2章 元気「ともに支え合い、元気に暮らせるまち」

2-1-1 生涯を通じた健康づくりの推進

- ・ 男性の不健康期間の増加、健康教室への参加率の低さが分析に挙げられているので、健康教室等への男性の参加が進むような取組を進めていただきたい。

2-3-1 地域支援事業の充実

- ・ 100歳以上で施設入所される方もおり、介護予防が充実していて、市や家庭でなるべく介護が必要にならないように頑張っているという感想を持っている。施設としても引き続き協力していきたい。
- ・ 各家庭で介護予防や介護に関してできることが増えた一方、対応できなくなったときに事故が起きてしまうようなギリギリのラインになっている印象もある。要介護者がいる家庭がサポートを受けられるよう支援を充実していただきたい。

■ 第3章 挑戦「みんなが挑戦できるまち」

3-2-1 産業拠点の形成と企業誘致

- ・ 企業誘致について引き続き頑張っていたきたい。

3-2-2 工業の成長支援

- ・ 産業振興アドバイザーについて、現在のアドバイザーが退職した際に、後任を探すのが大変ではないか。

3-4-1 収益性の高い農業の実現

- ・ ブランド化推進事業費の「凍霜害対策を実施している状態」は目標としてどうなのか。もっとふさわしい指標があるのでは。

3-4-2 有害鳥獣対策の推進

- ・ 中間アウトカム指標の「農作物被害額」について、減少ではなく横ばいではないか。
- ・ 農作物の被害について、被害防止のために自分で果樹を伐採するなど、収穫自体を放棄したという声も聞いている。たしかに被害額としては減少しているのかもしれないが、実態と違う部分もあるのではないか。

3-5-1 働きやすい労働環境の整備と人材確保・定着

- ・ 人材確保系の補助金について、実態は分からないが、仮に毎年同じ企業が使っているということであれば、周知が進んでいないということだと思う。
- ・ 高齢者や外国人の人材確保の支援を今後の取組にも含めてほしい。労働力が減少する中、高齢者や外国人の方にも働いていただかないといけない時代であるように思う。
- ・ 高齢者・外国人向けとして、単に補助金を出すだけでなく、交通マナーや災害時対応等を勉強する勉強会や講習会といった取組を実施してはどうか。町のマナーや交通ルールを学んでいただく機会があるといい。

■ 第4章 持続「安心して暮らせる持続可能なまち」

4-2-1 河川環境の保全

- ・ 河川一斉清掃について、少子高齢化で担い手が減少傾向にあるとの課題があるが、その対策について今後の取組に反映できないか。

4-4-2 歴史を活かした特色ある景観づくりの推進

- ・ 中間アウトカム指標に対する担当課としての評価・受け止めの記載が必要なのではないか。どう評価していいのかが分かりづらい。

4-4-3 安全な住宅環境づくり

- ・ 空き家の利活用が大事なのは分かるが、民泊への活用の動きが増えている現状もある。市では旅館の産業が形成されている中で、民泊への改修にも使われている現状について、善し悪しの判断が難しいとは思いますが、何か方針はあるか。
- ・ 民泊業者は母体がどこか確認しづらい。民泊は入湯税の対象外となり、観光客の入込数にも反映されない。バランスを考えていかないとミスマッチが今後起こる可能性がある。

4-5-1 民間事業者が運営する公共交通の維持・確保

- ・ 中間アウトカム指標の1日あたり便数に加えて、それぞれのバス路線の乗車人数も記載した方がいいのではないか。

4-7-2 消防団を中核とした地域防災力の充実強化

- ・ 本題からはそれるが、警鐘台（火の見櫓）について、外国人観光客に受けていてSNSで話題になっているそう。観光資源としての可能性があるのではないか。予算をつけて保全する方向もあるのでは。

■ 第5章 快適「快適に住み続けられるまち」

5-1-2 多面的機能を有する農地の保全管理

- ・ 中間アウトカム指標について、団体数ではなく面積にした方がいいのではないか。団体数で計るとすると、団体の規模にも大小あるため、小さい団体がまとまって1つ

になるようなことが起こると、団体数が減少したとなり、取組が後退しているような印象を受けてしまうのではないか。

5-2-1 公害等の環境問題への対応

- ・ 環境衛生費の活動指標として「不法投棄回収回数」は合致しているのか疑問。取組が進んでいるのか分かりづらい。回収した重さ等の量的指標が併記されていれば分かりやすいのではないか。

5-4-1 3R活動の推進

- ・ 上山市と山形市でごみの回収方法で違う部分があると聞いている。例を挙げるとペットボトル回収の頻度など。同じにしてもいいのでは。
- ・ 燃えるごみの減量のため、雑紙袋をもっと配付してはどうか。

■ 第6章 計画の推進

6-2-1 市民活動の後押しとなる広報広聴活動

- ・ 行政の取組発信は適宜行っている。今後も引き続き市民の視点で広報を進めていただきたい。

3 意見への対応

頂いた意見については、新年度の予算編成を行う際の参考意見として取り扱うものとし、意見に対する対応については、その結果を踏まえて2月頃に文書にて回答する。

以 上